



自立活動・研修部インフォメーション

でんでんむし

令和5年9月号

愛知県立岡崎聾学校

災害に備えよう

毎年9月1日は「防災の日」です。また、8月30日から9月5日は毎年防災週間として定められています。日本で起こる災害には、地震、津波、大雨、台風、竜巻などさまざまなものがあります。災害をなくすことはできませんが、災害が起こってしまったときに、知識や日頃からの備えて被害を最小限にすることはできます。今月号では、災害に関して知っておいてほしい情報や聴覚障害のある先生方の災害への備えについて紹介します。

障害種と死亡率



2011年に起こった東日本大震災では、家屋の倒壊や津波で大勢の人が亡くなりました。その中でも、障害のある人の死亡率は1.43%で、全体の死亡率0.78%の約2倍となっています。では障害種別の死亡率はどうなっているのでしょうか。

東日本大震災で被害にあった障害者種別の死亡率(岩手県、宮城県、福島県)

知的障害	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	精神障害
0.42%	1.14%	1.86%	0.74%	1.64%

NHK福祉情報サイトハートネットより

障害種別に見ると、一番死亡率が高いのは聴覚障害者です。その理由としては①災害の直前・直後には、緊急地震速報やサイレン・避難指示など聴覚情報が頼りになるため、情報を得るのが遅れてしまった、②停電によりテレビ(字幕)や携帯が使えなかった、などが考えられます。

気象庁の取り組み

このような背景があり、気象庁は令和元年10月から令和2年2月にかけて「津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会」を開催しました。そこで、津波警報等を伝達する手段として、「津波フラッグ」が提案されました。

津波フラッグは避難の合図

海から離れて高いところへ!

いつ使われる?	どこで使われる?	見かけたら?
※津波警報などの発表時 ※大津波警報・津波警報・津波注意報	海水浴場など 波音や風で音が聞き取りづらいため、旗で視覚的に伝達	高いところへにげて! すぐに海から離れ、高台や津波避難タワーなどへ避難を

監修：気象庁 制作：Yahoo!ニュース

詳しい情報は気象庁のホームページにのっています。右のQRコードを読み取ると簡単に気象庁のホームページにつながるので、ぜひ一度見てみてください。



聴覚障害のある先生からの意見

7月号に引き続き、聴覚障害のある先生方からお聞きした災害への備えや工夫を紹介します。

スマートフォン等が活用できるようになってきましたが、先生方からは「リアルタイムに素早く正確に情報を得ることはまだ十分ではない」「聴者がスピーディーにコミュニケーションを取り合って行動する様子を見ると、取り残された感がある」という意見をいただきました。その中で今回は、原先生・菅先生・鈴木さん・竹下さんが行っている工夫についてお聞きしました。

① スマートフォンやインターネットの活用

・乗換案内アプリや地図アプリを利用して、電車の遅延や道路の渋滞についての情報を得る。

・天気アプリを利用して、1時間ごとの天気予報や雨雲レーダーを確認する。

・市からの災害情報メールを受け取る。

・出かける前に、スマートフォンの充電を100%にしておく。

・アナウンスがあるときには、音声読み取りアプリを使う。

② スマートフォンやインターネットの活用以外の備え

・筆談用にメモやペン、電子メモパッドを携帯する。

・連絡手段や、緊急要請があったとき、災害が起こりそうになったときには協力してほしいことを、自分に関係する人に伝えておく。

・近所付き合いを大切にして、万が一の際には声をかけたり情報を教えたりしてくれるように頼んでおく。

先生方の備えや工夫を参考に、今一度防災について考え、日頃から備えておきましょう。

岡崎聾学校でも12月頃に「いのちの教室」として、筑波技術大学や気象庁から講師を招

いて、中学部・高等部の生徒に、地震や情報取得の方法について講演をしてもらう予定です。

【9月・10月の補聴器相談日】 ※ 場所：作法室 時間：13:45～15:45

緊急の場合は、直接店舗へ相談に行きましょう。

※10月28日(土)に文化祭の機器展が行われます。補聴器、聴覚障害者用日常生活用具などを体験・試用できます。また、担当者から説明も受けることができます。

	9/4	10/2	10/16
理研産業	○		○
岡崎ヒヤリング	○	○	
あいち補聴器	○		○